**11月8日　TedTech（株）　代表取締役CEO 野村哲雄氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

私は科学や技術に関してほとんど知識がないので、全体的にお話は何となくしか分からなかったのですが、技術革新はいつでも日々起こっていて、技術を主体とする会社はその流れを敏感に察知し、主要産業を変化させていくことが大切なのだということがよくわかりました。春にPCを買ったときにSSDという文字をよく見たのですが、SCMというのは知りませんでした。いつも自分が使っているにも関わらず、あまり知らないスマートフォン等についてこれから社会人として生きていくうえで、少しは知識があった方がいいのかなと思いました。また、今までよくお話を聞いていたIT産業と異なり、製造業では初期の資金集めが重要で、大変なのだとわかりました。(経済学部国際経済学科　1年)

今の世界は産業革命以来の変化の中にいるという言葉がとても印象に残った。今後自分のキャリアを考える中で、AIなどのテクノロジーやフィンテックといった世の中の動向についての知識が必要不可欠だと感じた。また、会社が倒産する理由は複数存在することを実例を交えながら学ぶことができてよかった。（経営学部・経営システム学科・1年）

　理系のコアな話で年の差もあったが、とても聞きやすかった。確かに僕たちが使っている画像データは膨大であるし、それを早く処理するものはとても便利だと思う。医薬品は親に言われて安いジェネリックにしているのだが、それが自国の医療の開発や進歩を阻害しているというのは驚いた。僕は今経営学部だが、もともと理系で生化学に進むか迷っていたので、ベンゼン環の実験はとても懐かしかった。とはいえ、なかなか細かい技術の話が多く、理解するのに苦労した。知識は持っていればいるほど良いものなので、このような工学部系の知識を付けるいい機会であった。経営学を教えてもらうというより自分の会社でどのような技術製品を作り、開発してきたかというような話だった。エンジニアや技術者のような人でも、社長になれるんだと驚いた。(経営学部経営システム学科　1年)

創業した会社がなぜ失敗したのか、その点をしっかり振り返って確認して、１度失敗したからといってやめることなく、いくつも会社を創業なさっていたことがすごいと思いました。失敗は本当にそこまで恐れるものではなく、行動することで得られることがあるのだと再確認しました。（経営学部　経営学科　1年）

「一生の仕事になりますか？」という言葉が印象に残った。今や就労年数が企業の寿命を追い越し、また、10〜20年後に40％の仕事が消える、などと言われている中で、生涯１つの仕事に就き続けることは難しいのではないかと思う。今後人の働き方にも大きな変革が訪れるのではないかと思う。その中で何か一つ自分の強みを見つけて変革に対応できる人になりたいと思った。そのためにも、より多くの情報・知識を自分の中に蓄えることをもっと大切にしていきたいと思う。（経営学部　会計・情報学科　1年）

講義の技術面の部分は難しかったが、知ったものばかりでとても興味深かった。印象に残ったことは、変化の激しい現代ではあるが、先が見えないわけではなく、時代はサイクルされていて、それをどうとらえるかが大事なのだ、ということだ。野村さんが創業された会社もそれぞれ時代のニーズに合っていて、その時々で欲するものを作り出していてすごいなと思った。特に発電鍋は震災が起きたときに需要が多かったと聞いて、その時のニーズに合うものを作り出すには時代を読み解く必要があって大変だと感じた。（経営　会計・情報1年）

初めて聞く用語ばかりであったが、新しい分野のお話を聞いたことで視野が広がりました。今は確かに情報系や自動車産業の盛んな時代ですが、昔を振り返ってみれば全く違う産業だったわけで、今に流されてはいけないと感じました。様々な会社を紹介していただきましたが、その中でも静電気除去器の会社の内容（イオンについて）が興味深かったです。でも、実際に便利なものであるとしても、その時代のニーズがなければ事業はなかなかうまくいかないということも学ぶことができました。消費者ありきの企業であることを会社は最も大切にしなければならないと思いました。（教育人間科学部学校教育課程3年）

有機化学実験における収益の向上には驚いた。今まで学生実験で行ったものはうまくいって60％前後だったので、9割を上回ったら世界が変わると思う。また、横国の教授にも超音波をあてることで重合反応を制御する研究をされている方がいらっしゃるので、これから期待されている技術だと改めて思った。廃熱エネルギーも面白かった。効率を上げたりシステムを変えるだけでなく、既存のシステムを改善できる技術にも目を向けたい。授業でやっていることばかりなので、とても面白かった。(理工学部　化学・生命系学科　3年)

まず、プロフィールを見てこんなに会社を変わる人がいるのかと驚きました。また、創業した会社の失敗理由の中で、もちろん経済、経営的な面はあったが、「技術者の独りよがり」や「関係者の人間関係」であったりと、そうしたところからも会社が失敗するということにつながるというのが意外でした。（教育人間科学部・人間文化・1年）

失敗した会社が、なぜ失敗したかについて話してくださる講義は今までなく、(どう成功したかのみの講義が多い)新鮮でした。「技術・生産・営業・市場ニーズのタイミングがずれていた」とあるように、今会社が何を求めているのかを正確に判断し、技術を高めて会社を創業することが重要なのだと感じました。(教育人間科学部・人間文化学科・1年)

就職するときの企業形態と、退社するときの企業形態が同じだと考えてはいけないと改めて考えさせられた。最近よく耳にする「これから消える職業、できる職業」をみて、自分なりに精査する必要があると感じた。また、自分のなりたい理想像は、まだ明確ではないがそのベクトルが職種なのか、はたまた役職なのか考えていきたい。(経営　経営システム　1年)

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

上司や株主との意見の違いは無ければ無いほうが良いのかなとは思いますが、会社を辞めてでもそれを突き通せる熱意に感銘を受けました。自分が持った意見が正しいと思うなら、他人の意見に左右されず、良いところは取り入れるという姿勢を取り入れていきたいです。また、これなら何でも説明できるような得意分は将来的に自分にも備えておきたいと思いました。（経営学部・会計情報学科・1年）

面白い技術ばかりなのに、会社として失敗している例は、今化学を勉強している身としては背後に迫る現実のようでヒヤリとした。非常に興味深いテーマだったので、お話が聞けて本当によかった。化学をただ学ぶのではなく、時代の波を考えながら、次世代に必要なものを見極められるようになりたい。(理工学部　化学生命系学科　3年)

今日の講義を聞き、一番感じたことは、自分が失敗した理由を解明するということだった。挑戦や試みを積極的にしながら、うまく失敗を繰り返していきたい。（教育・人文学科１年）

**授業スタッフの感想**

半導体からマイナスイオンといった、日々の生活に身近なもの、周りのつながりを見る・考える・動くことが大切だと思いました。また、現実的に経営者は技術や営業、市場、資金といった様々なことを視野に入れ動いていかなければならないと改めて感じました。

今回のアンケートピックアップをして思ったことは、野村さんが最初の方でおっしゃっていた「サイクル」について印象に残っている人が多かったということです。AIの発達によって様々な職種がなくなり、未来はどうなるのかと考える中で、実は最初と同じようなことがまた繰り返すとおっしゃっていました。このサイクルの波に乗れるかどうかが大切だということで、印象に残っていたのではないかなと思います。自分も現在のような目まぐるしく状況が変化する中でも、流されることなくしっかりとサイクルの波を意識していきたいと思いました。